

肺CT検診について

健診部次長 浅田 敬子

日本人の死亡原因のトップは悪性疾患（がん）で、その中で肺がんが第一位です。このため、肺がんの早期発見が、国民医療において最も重要な課題のひとつとされています。

肺がん検診には、胸部単純X線撮影と喀痰細胞診を組み合わせた検査が進められています。しかし、胸部単純X線撮影では、心臓、大きな血管や骨と重なる部分では読影が難しく、診断の弱点となっています。CT（computed tomography）検査はこの弱点を解消する有力な検査手段です。

ヘリカルCTによる肺がん検診では、小さな（1～2cm）肺がんを、できるだけ低線量（被ばく線量を少なくする）で発見することを主眼としており、最新のCT機器では通常の診断用線量の1/10以下の線量での撮影が可能になっています。

CT検診の受診間隔や時期については特に取り決めはありませんが、50歳以上では少なくとも3～5年に一回程度はCT検診を受けることをお勧めします。またヘビースモーカーの男性の方は40歳代からお勧めします。ただ、妊娠中の方、心臓ペースメーカーをつけた方、若い

方（10～20歳代）、検査時仰臥位になれず、動きが激しい方などは検査を受けることができません。

またCT検診は、肺気腫の診断にも有効な検査です。肺気腫は、主に喫煙や大気汚染などにより肺胞が徐々に破壊され、5～10年以上経過すると、安静時でも息切れや息苦しさが出現し、最終的には日常生活にても酸素ボンベが必要となり、QOL（日常生活動作）に大きく悪影響を及ぼします。しかし、肺気腫と診断されても、禁煙によりそれ以上進行しないといわれていますので、喫煙されている方も今からでも遅くありません。最近は禁煙補助薬を使う保険診療ができるようになりましたので、禁煙外来のある医療機関に問い合わせてみられると良いでしょう。

当協会では、CT検診車で撮影された画像は、協会に転送され、複数の医師により診断されます。また、年一回、専門委員会が開催されています。ここでは多数の医師により診断が困難であった症例や読影の進め方への検討と改善が行われており、さらなる診断技術の向上を図り、検診精度管理に努めています。

参考文献：日本における低線量CTによる肺がん検診の考え方（肺がんCT検診ガイドラインより）

Sante
Quiz

昭和56年以来、日本人の死因のトップは何でしょう。

A 事故

B 自殺

C がん

D 老衰

クイズの答えをお寄せ下さい。正解者の中から抽選で7名の方に図書カード(500円)を差し上げます。ハガキに答えと、郵便番号、住所、氏名、「サンテ宮崎」をどこで見られたか、取り上げてほしいテーマ、感想などをお書き添えのうえ、右記へお送り下さい。メッセージはこのページで紹介する場合があります。応募により得られた個人情報、当選発送のみに使用します。

前号の答え：◎ 1130

切手 〒880-0032

宮崎県健康づくり協会
「サンテ宮崎」編集係
宮崎市霧島1-1-2

★答えは次号で発表します。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

★応募締切：平成26年4月11日(金) 当日消印有効